

I 研究主題

学習指導要領を踏まえた授業づくり 授業に生かす評価のあり方 2年次研究

II 研究の目的

1 主題設定の理由

本校では、令和2・3年度の前次研究において、研究主題を「児童生徒の学びの充実を実現するための授業づくり～3つの視点に基づいた授業改善～」とし、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業実践に学部ごとに取り組んだ。それぞれの視点を大切にしたい授業づくりを行うことにより、以下の成果が挙げられた。

【視点1 学習の見通し】

児童生徒が自分で目標を考えて取り組むことができた。

児童生徒と教師がねらいを共有し、目標に向かって取り組んだ。

【視点2 学習課題を解決するための学習活動】

実態に合わせた課題やグループ設定により、それぞれが課題を解決しながら取り組んだ。

【視点3 学習の振り返り】

それぞれの発達段階に応じた振り返り方法で、児童生徒は自ら振り返り、「何ができるようになったか」を考え、次の目標を自己決定することができた。

また、3つの視点に基づき、各学部の実態に合わせて様式を検討した「授業づくりシート」については、授業計画や授業改善、学習評価を共有するツールとして活用することができた。

一方で、目標を設定し、「何ができるようになったか」を評価することはできてきたが、育成を目指す資質・能力を具体化し、目標と評価規準を明確にするまでには至らなかった。評価規準を明確にし、さらに個別の指導計画の作成に生かしていくことが課題として残った。

今年度からの研究を進めるにあたり、職員アンケートを実施した。新学習指導要領が全学部で実施になることから、「学習指導要領、学校目標、学部目標を踏まえた教科等の学習内容や指導ポイントを整理したい」、「教科横断的な学びについて考えたい」、「観点別学習状況の評価について基本から学びつつ、授業づくりや評価を含む個別の指導計画の作成につなげていきたい」との意見が寄せられた。

このことから、中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について」の報告にもあるように、全国的に学習評価について指摘されている課題や改善の基本的な方向性を踏まえて、学習評価を意味のあるものにしていく必要があると考えた。

そこで、前次研究の成果である授業づくりの手順を継続しながら、学習評価の視点を加えた取組を進めるために、「学習指導要領を踏まえた授業づくり 授業に生かす評価のあり方」と研究主題を設定した。

2 研究目的

(1) 観点別学習状況の評価の具体的理解と実施

(2) 指導と評価の一体化を目指した授業づくり

・児童生徒の学習の改善 ・教師による指導の改善 ・学校全体としての教育課程の改善

Ⅲ 研究内容

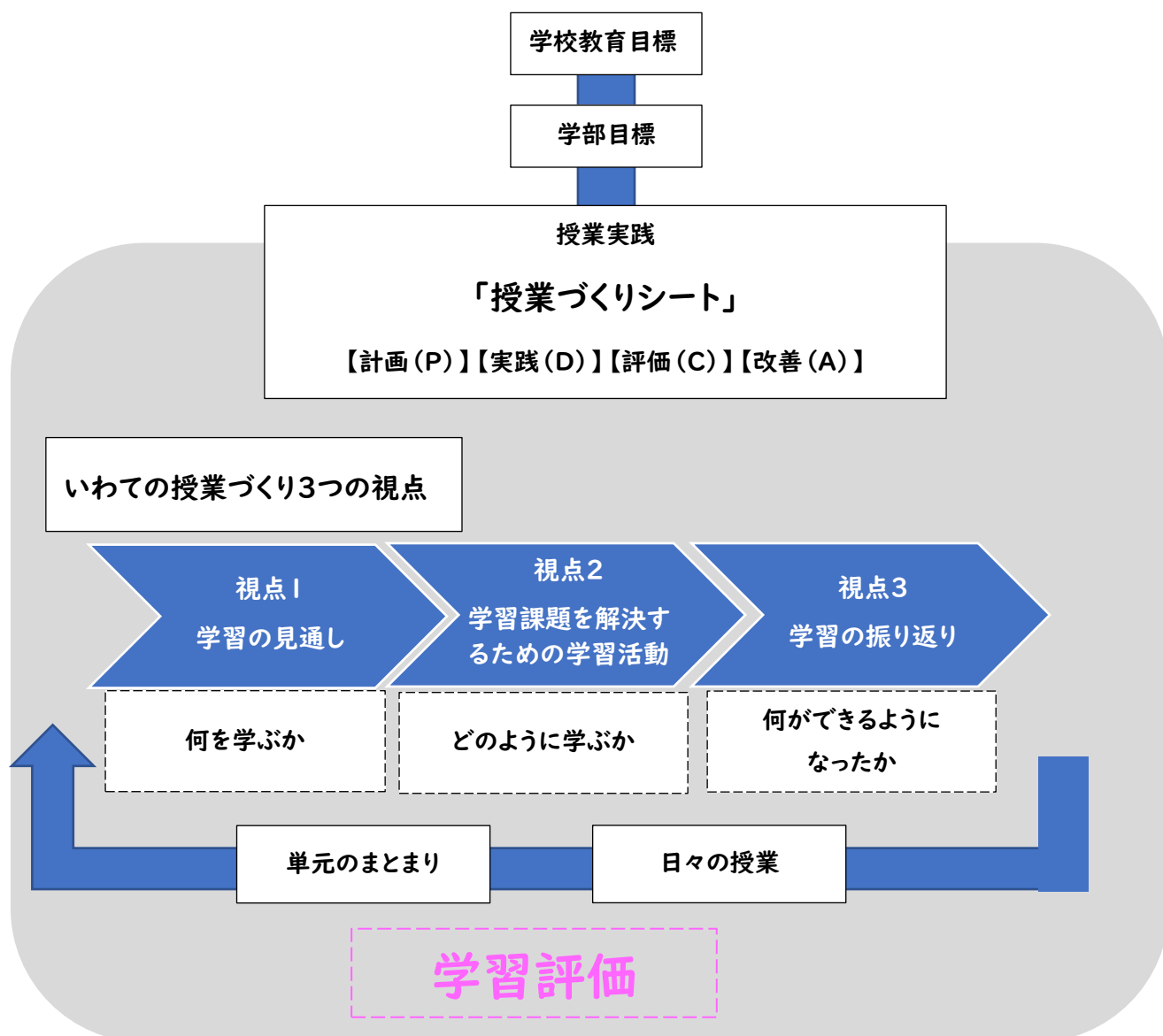
1 学習評価

- ・観点別学習状況の評価について理解を深める。
- ・観点別学習状況の評価を日々の授業レベルで実施する。

2 授業実践（前次研究より継続）

- ・「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくりシートを活用した授業づくり
- ・授業研究会

Ⅳ 研究構想図



2年次研究（1年次）

I 研究方法

- ・各学部での取組
- ・教科は、国語または算数／数学

（上記の教科が教育課程にない児童生徒の授業については、指導要録には教科別に評価を記載することを踏まえ、それぞれの教科の目標を達成するための授業を、各教科等を合わせた指導において実践することとした。）

II 研究推進

- ・研究日を月1回設定する。
（設定日にこだわらず、単元や授業によって各学部で日時を調整して実施する。）
- ・各学部内で実践を見合い、全体授業研究会で共有する。

実施日	内容	
4月27日（水）	第1回全体研究会	研究推進の確認 職員共通理解
5月10日（火） 6月21日（火）	研究日（学部研究会）	授業づくり 授業改善
7月22日（金）	全体授業研究会	授業参観 気付いた点の共有
7月26日（火）	高教研講演会	演題 「学習指導要領を踏まえた授業づくり 授業に生かす評価のあり方」 講師 東北福祉大学 教育学部 教授 大西孝志氏
8月23日（火） 9月20日（火）	研究日（学部研究会）	授業づくり 授業改善 評価
11月22日（火） 12月20日（火） 1月26日（木）	研究日（学部研究会）	授業づくり 授業改善 評価 まとめに向けて
3月1日（水）	第2回全体研究会	1年次の研究のまとめ

III 小学部の実践

1 取組

研究の目的や内容に基づいて、日々の授業づくりとリンクするように研究を推進した。児童の実態や学習集団に応じて、①1・2年1組 ②2年2組 ③4～6年の3つのグループで授業づくりを進めてきた。対象の学級に所属しない教師については、指導場面に関わることの多い学級の授業づくりに携わることとし、学部全体で授業づくりを行った。日々の授業づくりをグループごとに進めるとともに、月1回程度の研究日では、授業を振り返ったり、評価をしたりするなど、複数の視点で授業づくりを行うことができるように取り組んだ。

4～6年のグループの取組では、授業づくりにあたり、児童の姿を具体的に思い浮かべながら計画を立てることが大切であり、そのためには授業づくりシートを作成の上、授業を行うことが必要であることを再認識した。しかし、児童の障がいの程度が重度であるほど、「どの程度のスモールステップで授業を進めればよいか」「児童の表情や動きのわずかな変化を捉え、その様子に当てはまる言葉を探したり選んだりしながら、評価規準／基準を設定するのが難しい」と悩むことが多かった。そこで研究日には、学習指導要領を参照しながら、評価規準／基準に合う言葉選びをしたり、授業構成をどのように細分化することができるのかを考えたりすることで様々な意見を出し合い、よりよい授業づくりに向けて取り組んだ。

2 成果と課題

(1) 学部全体での成果と課題

ア 観点別学習状況の評価についての具体的理解と実施

文献等を参考に、小学部の取組に沿って整理した資料小：資料1を作成した。それを学部研究会で共有し、「観点別学習状況の評価とは何か」を確認する機会を設けた。

改めて学習指導要領改訂のポイントを押さえたり、評価規準／基準の設定方法や目標達成のための授業づくりのあり方を確認したりすることができた。資料は、授業づくりや評価の場面で参照できた。

実際に授業や評価を行うことで、見えてきた課題は次のとおりである。

- ・児童の障がいの程度が重度であるほど、細分化して規準を設定するため、規準と基準が同様の表記になることもあるのではないかな。
- ・単元の取組期間を考える（区切る）ことが難しい。教師の見立てと児童の実際の姿が異なることも多く、その都度授業づくりシートを作成する必要があった。
- ・目標が同じであっても、題材や手立てが変更されるため、個別の指導計画の目標が前期・後期ともに同じでもよいのではないかな。

イ 指導と評価の一体化を目指した授業づくり

観点別学習状況の評価の視点を取り入れた授業づくりシート小：資料2や、年次研修の教師については研修に合わせて学習指導案を作成、活用することで、指導と評価の一体化を目指した。シート作成と授業実施、評価のサイクルの中で、シートの内容に不十分な部分や、観点別学習状況の評価になじまない部分、児童の実態に当てはまらない部分が認められ、日々の授業レベルで活用することを目的として修正を加えてきた。

また、グループごとに授業づくりシートの内容の検討を行うことで、授業づくりでの悩みを共有しながら様々な考えを出し合い、授業づくりシートの作成や授業に反映させることができた。さらに、授業実践や教材の工夫について他の教師から助言をもらうだけでなく、自身も他の教師に実践を紹介することで評価してもらえる機会となり、自信や意欲の向上につながった。

1年次は主に、対象となる教科に絞って丁寧な授業づくりを行ってきたが、今後は他の教科や合わせた指導においても、この授業づくりのプロセスを細やかに踏んでいくことが課題である。

(2) グループごとの成果と課題 ○成果 △課題

① 1・2年1組

教科（領域）名	国語
観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 の 具 体 的 理 解 と 実 施	<p>【学習評価】</p> <p>○学習指導要領を根拠にした目標や指導内容を設定することができた。</p> <p>○評価の観点の捉え方や、規準／基準の作り方について整理することができた。</p> <p>○日々の授業レベルでの実施を繰り返すことで具体的理解につながった。</p> <p>○授業計画と評価計画を並行して作成することで、児童の学びをより丁寧に把握することができた。</p> <p>△「主体的に学習に取り組む態度」の押さえ方について、理解を深めたい。</p> <p>△合わせた指導場面での目標設定や評価の方法について、考えていく必要がある。</p>
指 導 と 評 価 の 一 体 化 を 目 指 し た 授 業 づ く り	<p>【授業実践】</p> <p>○観点別学習状況の評価の観点を盛り込んだ授業づくりシートを作成することで、負担感なく取り組むことができた。</p> <p>○評価規準に迫る評価基準を具体的に設定することで、随時、手立て等を見直すことができた。</p> <p>○個別の指導計画の目標達成に直結するような授業づくりを実践することができた。</p> <p>△単発的な単元設定とならないように、教科横断的な視点や学部内の系統性を大切にしていきたい。</p>
児 童 の 学 び	<p>○「何をどのように学ぶのか」が分かりやすい内容を、繰り返すことで学びが定着し、学習場面以外でも学んだことを表現することができた。</p> <p>○学びの楽しさに気が付き、自分たちで学習準備を始めることがあった。</p>
教 師 の 指 導	<p>○「最終的にたどりついてほしい姿」を思い浮かべて、目標設定や単元構成、手立てを吟味して授業することで、研究主題に迫る取組ができた。</p> <p>○細やかな授業づくりにより、児童同士、児童と教師間、教師同士の学び合いができた。</p>

② 2年2組（通常教育課程の2名対象）

教科（領域）名	算数
観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 の 具 体 的 理 解 と 実 施	<p>【学習評価】</p> <p>○研究部が作成した資料が分かりやすく、学習指導要領のポイントや規準／基準について理解することができた。</p> <p>○日々の授業の中で実施することができたため、負担感なく取り組んだ。</p> <p>△全ての教科や合わせた指導で実施すること。</p>

指導と評価の 一体化を目指した 授業づくり	<p>【授業実践】</p> <p>○子供たちにたどりついてほしい姿を明確にして、指導を行うことができた。</p> <p>○個別の指導計画に基づいた授業づくりを展開することができた。</p> <p>○授業や評価を毎時間実施することで、児童の学びや指導改善に生かすことができた。</p> <p>△国語や算数において授業づくりシートをあまり活用できなかった。単元やねらいが変わるごとに作成することで、もっと指導の質が上がったのではないか。</p>
児童の学び	<p>○学習の振り返りを通して、自分ができるようになったことを理解することができた。</p> <p>○学習のパターンを理解し、学習道具が入った箱を自分から準備するようになった。</p>
教師の指導	<p>○最終的にできるようになってほしいことを踏まえて、この時間ではどこまで到達できればよいのか（基準）を考えることができ、スモールステップを大切にした指導をすることができた。</p> <p>△「できた」と評価する精度や客観性を高めたい。</p>

③ 6年2組（訪問学級）

教科（領域）名	自立活動 ※国語の学習要素を内容とする。
観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 の 具 体 的 理 解 と 実 施	<p>【学習評価】</p> <p>○学習指導要領に基づいて、目標や指導内容を設定することができた。</p> <p>○評価の観点の捉え方や、規準／基準の立て方について意見をもらいながら整理することができた。</p> <p>△児童の実態に合わせた目標設定や評価方法を考えることが難しかった。</p>
指 導 と 評 価 の 一 体 化 を 目 指 し た 授 業 づ く り	<p>【授業実践】</p> <p>○授業づくりシートを作成することで、個別の指導計画に基づいた指導内容を意識して取り組むことができた。</p> <p>○グループで授業づくりシートの内容の検討を行うことで、一人の授業者では「手立て」として捉えられていなかった部分に気付くことができた。</p> <p>△できた姿の表出が限定的であることから、「主体的に学習に取り組む態度」の押さえ方について考えていく必要がある。</p>
児童の学び	<p>○絵本に注目して学習に取り組むことができた。</p> <p>○読み聞かせに意識を向けることができた。</p>
教師の指導	<p>○授業づくりシートの作成を通して、目標設定や指導内容の精選について学ぶことができた。</p> <p>△児童の体調が最優先であるため、授業回数に見通しをもって計画的に進めることに難しさを感じる。</p>

3 2年次に向けて

1年次の取組を踏まえ、2年次には以下のことに視点を置いて研究を推進することとした。

- ・観点別学習状況の評価の視点を取り入れた授業づくりシートの作成を継続する。
- ・学習グループごとや実態別のグループごとに、授業づくりや指導方法について共有する機会（研究日）の設定を継続する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の押さえ方について、理解を深める。
- ・上記の3点を踏まえて、国語または算数での授業づくりを継続し、合わせた指導での取組につなげる。

小：資料1

親しもう！ 観点別学習状況の評価

宮古恵風支援学校 小学部 研究部 R4.6

参考

評価が変わる、授業を変える 高木展郎

特別支援学級・特別支援学校 新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫 武富博文 増田 謙太郎
特別支援学校学習指導要領目標一指導一評価を一体化する【国語】【算数・数学】の学習評価 新井英靖 茨城大学教育学部付属特別支援学校
【国語】【算数・数学】の学習指導要領づくり・授業づくり 新井英靖 茨城大学教育学部付属特別支援学校
特別支援学校新学習指導要領を読み解く【各教科】「自立活動」の授業づくり 新井英靖 茨城大学教育学部付属特別支援学校

学習指導要領の最大のポイント

何を学んだか
(学力)



どのような力を
身に付けたか
(資質・能力)

教科横断的に育成する

評価観の大きな転換！

学習評価の目的

児童

学習したことを振り返り、次の学習への気付きや期待をもつことができるようにすること

教師

児童の学習状況を踏まえて、単元計画の見直しや支援方法なども含めた指導の改善・充実を図ること

指導と評価の一体化

観点別の学習状況の評価について

学習指導要領における資質・能力の3つの柱

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等

学びに向かう力、
人間性等

個人内評価

観点別学習状況の評価の各観点

感性、思いやりなど

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

評価規準／基準を考えるポイント

単元ゴール

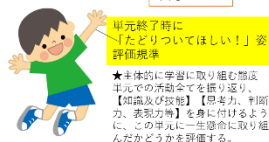
1単位時間で、「これできたらよし！」の姿
評価基準 〇 本時の個人の目標



単元スタート

本時の授業の中で、評価する姿
例) 知識・技能

本時の授業の中で、評価する姿
例) 思考・判断・表現



単元終了時に「たどりついてほしい！」姿
評価規準

★主体的に学習に取り組む態度
単元での活動全てを振り返り、
【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】を身に付けるように、この単元に一生懸命に取り組んだかどうかを評価する。

※段差は順序や難易度を表すものではない。学びの積み重ねのイメージ。

評価規準／基準を考えるポイント

「評価規準」

達成してほしい、単元の大まかな目標

「これできたらいいなあ」「こうだったらいいなあ」 **最終的にたどりついてほしい姿!**

「評価基準」

本時の授業の中で、**具体的にどの場面で、どのように評価するかを記したもの**

十分満足できると判断される姿…A

概ね満足できると判断される姿…B

努力を要すると判断される姿…C

〇 のような考え方

〇 のような考え方

〇 のような考え方

〇 本時の個人の目標「この時間ですべてできるようになってほしいこと」

通常学校ではオーソドックスだが、実態差の大きい支援学校では、なじまない。そのため、評価を個人ごとに設ける。

各教科等における評価規準のつくり方

学習指導要領解説 各教科等編では、「内容」に評価の対象となる具体の指導事項が示されている。

単元や題材で「最終的にたどりついてほしい姿」に近いものを、表記を変えて評価規準とする。

各教科等における評価規準のつくり方

【知識・技能】

学習指導要領に示されている【知識及び技能】のうち、単元や題材で「最終的にたどりついてほしい姿」に近いものを、文末表現を変えて記す。

文末表現

「〇〇に気が付いている。」 「〇〇が分かっている。」
 「〇〇を理解している。」 「〇〇の知識を身に付けている。」
 「〇〇することができる。」 「〇〇の技能を身に付けている。」

各教科等における評価規準のつくり方

【思考・判断・表現】

学習指導要領に示されている【思考力、判断力、表現力等】のうち、単元や題材で「最終的にたどりついてほしい姿」に近いものを、文末表現を変えて記す。

文末表現

3つ取り上げるとき 「～したり、～したり、～したりしている。」
 2つ取り上げるとき 「～したり、～したりしている。」
 分けて取り上げるとき 「～しようとしている。」

各教科等における評価規準のつくり方

【主体的に学習に取り組む態度】

【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】の中、それぞれ重要な要素を取り出し、【知識及び技能】を身に付け「たり（るとともに）」、【思考力、判断力、表現力等】を「～しようとしている」と表現する。

文末表現

「～したり（するとともに）、～しようとしている。」

学習指導要領の最大のポイント

何を学んだか
(学力)



どのような力を
身に付けたか
(資質・能力)

教科横断的に育成する

評価観の大きな転換！

評価の具体

資質・能力の内容として、1単位時間で指導をした結果を評価することは難しい。

単元や題材のスパンの中で、評価の観点をつき、どのように位置付けるかを考える。

繰り返して育成を図る時間があってもよい。

3つの資質・能力を扱わない時間があってもよい。

一つの単元や題材の学習が終わるとき、3つの資質・能力の育成が図られていることが求められる。

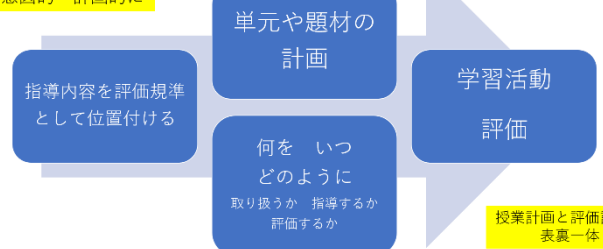
大切なことは、身に付けた資質・能力が、生活上の課題や困難に直面したときに活用することができるものであるか、また、活用することができるか、ということ。

評価の具体

知識・技能	単元の授業時間の中でも比較的初期段階の時間に設定されることが多いと考えられる。 教師が指導をし、【知識・技能】を育成する時間があつてよい。
思考・判断・表現	(主体的・対話的で深い学びの視点から) 単元の学習の核となるため、学習の中心となる場面で評価が多くなると考えられる。 教科によっては評価規準として一つのみを設定ではなく、複数設定されることもある。
主体的に学習に取り組む態度	単元の重要課題を取り上げているため、単元の後半での評価となる。 単元の初めから、この「主体的に学習に取り組む態度」が育成されているならば、その単元での学習を行わなくてもよいということになってしまう。最後に評価しよう！

指導と評価の一体化の意味

意図的・計画的に



学年等	小学部1・2-1		場所	1・2-1教室		
教科・領域・単元名	国語「おおきなかぶ」こくごー(上) 光村図書					
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	絵本の挿絵を手掛かりに、内容を大まかに理解している。		次の場面を楽しみにしたり、言葉のもつイメージを感じ取ったりしている。		絵本の挿絵を手掛かりに内容を大まかに理解したり、言葉のもつイメージや動作を結び付けたりしている。	
単元と評価の計画	まとめ	期間	学習活動			評価項目
			知	思	主	
	第1次 (1時間)	10/3 2K	絵本の読み聞かせを聞く。 登場人物や場面の状況を確認する。			○
	第2次 (5時間)	10/4 2K	かぶの模型を使用して、絵本のストーリーに合わせたごっこ遊びをする。			○
		10/5 2K				
10/6 2K						
10/11 2K						
10/12 2K						
第3次 (2時間)	10/14 2K 11/4 2K	オリジナル絵本「おおきなかぶ」をつくる。 学部集会で発表する。			○	
児童	評価の視点(基準)		支援の手立て		評価	
A	パネルシアターに注目することができる。		パネルシアターを用いる。 正面に座席を配置する。		できた。 始まりの音楽が流れると自分で椅子を選び、着席することができた。 自分からパネルを配置することがあった。	
B	「かぶ」や「いぬ」の名称を話すことができる。		名前を呼んでから質問をする。 絵を指さして注目を促す。		できた。 前単元の学習を生かし、「ねこ」と話すこともできた。	
C	「かぶ」の名称が分かる。		実物を用意する。 教師の口形を提示し、はっきりとした口調で話す。		未実施	
D	パネルシアターの読み聞かせが始まるのが分かる。		関連する曲を流して、はじまりのきっかけを示す。		できた。 読み聞かせの始まりを静かに待つことができた。	
学習内容・活動			指導上の留意点=深い学びにつなげるための工夫 (⇒:評価基準 <>:評価の方法)			
0 はじまるよ			・関連する曲を流し、学習の開始を知らせる。 ⇒D<行動観察>			
1 かくにんしよう ・学習内容を確認する。 「おおきなかぶ」をよもう。			・絵本の挿絵を提示する。			
2 きこう ・読み聞かせを聞く。 ・絵本の内容を確認する。			・教科書「おおきなかぶ」をもとに、一度に提示する文や絵の量を調整したオリジナルの教材を作成し、スクリーンに映す。 ・「うんとこしょ、どっこいしょ」という特徴的なリズムのせりふは、声に抑揚を付けたり、動作を組み合わせてたりして読むことで印象付ける。 ・絵の指さしや具体物の提示により、登場人物や場面について確認する。 ⇒A、B、C<発言や行動の観察>			
3 こつこつタイム A:名前 B:運筆、名前、シール貼り C:運筆、ものの名前 D:操作課題			・実態や課題に適切な内容や量を調整して提示する。			
配置図 ペア など						
指導の 振り返り						

IV 中学部の実践

1 取組

- (1) 「授業づくりシート」、「授業づくりシート【次の授業に向けて】」**中：資料1**の検討

前次研究からの様式を継続した。授業の振り返り、改善をしながら、授業者間で共有できるようにした。

- (2) 「評価シート」**中：資料2**の検討

授業者が取組の様子を自由に記入する様式で取り組んだ。「◎：できた」、「○：支援あり」、「△：改善必要」の印を文頭に付けて記述し、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況の評価をするようにした。

様式については、「◎：できた」と評価した生徒がそのまま終わらず、次の目標を意識できるように、「ステップアップ（次の目標）」の項目を追加した。

国語や数学については、個別の指導計画の目標を明記しているが、保健体育、音楽、美術については、単元目標のみ記入していた。そのため、「個別の指導計画の目標を意識しにくい」と課題が挙がり、上記の3教科については個別の指導計画の目標一覧を作成、添付し、回覧するように改善し、個別の指導計画の目標の意識付けを図った。

- (3) 個別の指導計画への活用

各学年、作業学習（紙づくり班、製品班）、音楽、保健体育、中学部行事・委員会のファイルに授業づくりシートや評価シートを綴り、個別の指導計画の評価場面で活用した。

- (4) 授業研究会

授業提案を数学で統一し、5つのグループで授業参観をした。評価シートを活用し、観点別学習状況の評価について、意見交換や情報共有することにつながった。

2 成果と課題

- (1) 指導と評価の一体化を目指した授業づくり

ア 「授業づくりシート」、「授業づくりシート【次の授業に向けて】」、「評価シート」

P 授業づくりシートの作成（T1）

D 授業

C 授業づくりシート【次の授業に向けて】：教師の振り返り、評価シート

A 授業改善～授業実践

上記のPDCAサイクルが定着した。

評価シートを活用することで、目標を意識しながら評価することができ、個別の指導計画の評価場面で有効だった。また、関わった生徒以外の学習の様子を知ることができた。

課題は、回覧するタイミングや回覧方法が、教科によって異なっていたことである。授業日によって差はあるが、その点について確認することが必要である。

イ 授業研究会

成果は、授業づくりシートや評価シートの活用方法を学部で共有できたことである。また、単元を統一したことで、グループ毎の目標やねらい、段階別評価の違いを共有することができた。次年度の年間指導計画に生かされると思われる。

課題は、類型Ⅱの教育課程の場合、各教科として評価する難しさを感じたことである。

ウ 学習評価

成果は、評価シートを記入することで、3観点を意識しながら評価するようになり、また、評価に偏りがあつたことに気付き、次につなげることができるようになったことである。

課題としては、「主体的に学習に取り組む態度」は、評価をしにくいことがあげられる。どのように評価するべきか迷うことが多く、授業で気付いたことを記入している段階である。

3 2年次に向けて

授業づくりシート、授業づくりシート【次の授業に向けて】、評価シートの作成、活用を継続する。学部研究では、研究授業を国語または数学での授業とし、単元を統一する。それを基に、学習評価の捉え方を共有する。課題となった「主体的に学習に取り組む態度」についても、どのように評価するのか、手立ては何かなど、学部で検討する。

中：資料1 授業づくりシート【次の授業に向けて】

【次の授業に向けて】

1 視点1「学習の見通し」について

ピッカーパットチーム：何点を狙うのか、何点を狙え(せよ)かを確認してから投げる。

録：1 現在何点であるか、後何点とれば良いか、確信を持って投じた good!!

2 視点2「学習課題を解決するための学習活動」について

A：77777を活用し、ここからでないというゾーンをつくり、ポイント投げることを伝えると投じた。

録：77777投がられるので、投がれるのは2回まで、2回とも外れた場合は0点だった。グレ... 投げる距離性を人によって調整しながら、投げるようにした。

3 視点3「学習の振り返り」について

- 片付け後に、各グループ代表1名にプレゼン振り返りの感想発表をしてもらうようにした。

4 その他

- 外のモックよからたす。正

- 次回、バレーボールです。授業プリント後日直しです。

エフサイズはハイキックです。

作業学習

中学部 【評価シート】

氏名				
目標	<ul style="list-style-type: none">紙すきの工程を覚え、準備から片付けまで一人でやる。目標の作業量を達成するまで、続けて取り組む。	<ul style="list-style-type: none">作業工程を覚えて、カレンダーやポチ袋の製作をする。働くことの大切さや、楽しさを知る。	<ul style="list-style-type: none">作業手順を理解して自分から作業に取り組む。目標を意識して取り組む。	<ul style="list-style-type: none">はがし残しがないことを確認しながら、ラミネートをはがしに取り組む。ミキサーの作業工程を覚えて、目標を意識しながら取り組む。
取り組みの様子 (観点別の目標に対する生徒の様子を記入しましょう) ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">① カレンダーの工程を覚えて、声がかけても次の工程に可能な状態でいた。② ミキサーの作り込みも自分から進んで進め、目標達成まで続けて取り組む中で、自分から報告していき、達成感を感じていた。③ 報告ができていない <p>◎：できた ○：支援あり △：改善必要</p> <p>なんでも</p>	<ul style="list-style-type: none">① ポチ袋や封筒づくりでは、作業工程を覚えて取り組んでいた。② ゴミやしおに気付いて自分から報告していた。 <p>スロウに楽しめた。</p> <p>この日は楽しめた。</p> <p>・わがわが 一生懸命頑張る。 頑張るというか？ なんでも</p>	<ul style="list-style-type: none">① 手順は分かって取り組む様子が見えた。③ 目的(給食・お菓子)を意識できると作業に取り組んでいた。 <p>・後は、意識できている様子を</p>	<ul style="list-style-type: none">① ミキサーの作業工程を覚えて一人で取り組むことができていた。② 水をくむためのバケツの中の水が少なくなると自分から依頼していた。③ 目標を意識し、達成に向けて取り組んでいた。
ステップアップ (次の目標)	<ul style="list-style-type: none">困ったときに伝えられるようにしたい。	<ul style="list-style-type: none">自分でできた自信の体験や個性を伝えることができるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none">一時間以内は継続して作業に取り組ませたい。	<ul style="list-style-type: none">集中し、作業のスピードが上がるようにしたい。目標数を意識して取り組むようにしたい。

手立てなどを記入しよう

保健体育

氏名				
目標	<ul style="list-style-type: none">指定された得点を狙って投げる。	<ul style="list-style-type: none">狙った的に当てる。	<ul style="list-style-type: none">狙う点数を考えながら、ゲームをする。	<ul style="list-style-type: none">ゲームの中で教師と確認した点数を狙って投げる。
取り組みの様子 (観点別の目標に対する生徒の様子を記入しましょう) ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">① 自分で得意の範囲を組んで、楽しんでいる。自分から報告している。② 目標達成に向けて頑張っている。 <p>・投げ方はわかる？ ・投げるやり方が難しい？</p> <p>・投げ方はわかる。思っても、投げてみて、自分から報告して、楽しんでいる。</p> <p>◎：できた ○：支援あり △：改善必要</p> <p>なんでも</p>	<ul style="list-style-type: none">・総合点数は意識がなかった。・総合点数のゲームは楽しんでいる。 <p>① ②</p> <p>なんでも</p>	<ul style="list-style-type: none">・50点を目標として狙う点数を自分で決めて投げている。・2回連続50点とり賞。・投げたの角度、投げた高さ、投げたスピード、投げた方向を意識して投げる。 <p>なんでも</p> <p>・投げたの角度は、今のところ、投げたスピードがポイント。</p>	<ul style="list-style-type: none">・「11、1にこだわって遠くにある場所に投げよう。」・違う数字をうたうかして楽しむ。・ゲームが終わると、すぐまた歩みを進めよう。 <p>なんでも</p> <p>・今日もモロツクおわりというゲームは楽しかった。</p> <p>・最後は、お菓子を食べよう。</p>
ステップアップ (次の目標)		<ul style="list-style-type: none">・総合点数を意識して楽しもう。		

V 高等部の実践

1 取組

(1) 授業づくりと観点別学習状況の評価

授業者が授業づくりを効率的に進められるように、授業づくりシートの様式についての確認や検討を行った。授業実践については、授業づくりシートを活用しながら「評価規準の作り方」や「評価規準に沿った評価の仕方」についての研究に高等部全体で取り組んだ。

高等部の国語や数学の学習形態は5グループに分かれており、それぞれほぼ一人の教師が授業を進めている。一つの授業で複数の教師が指導場面に関わることはないため、研究日にグループで取組を共有する際には、普段授業に入っていない教師や同じ教科を指導する教師でグループを編制し、互いの授業の進め方や評価規準／基準の設定方法、評価の仕方について共有した。学習指導要領や「児童生徒の学習評価の在り方について（中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部）」などについて読み合わせを行い、目標設定の指標になるものや評価の考え方について学部で話し合った。

(2) 個別の指導計画との関連

日々の授業での評価を、個別の指導計画と関連付けられるよう、実際に個別の指導計画に記入することを考えながら、評価を行った。

2 成果

(1) 授業づくりと観点別学習状況の評価

前次研究で作成した授業づくりシートを見直し、修正を加えて改善した。高：資料1

単元を通して作成した方が分かりやすいため、毎時間作成することとせず、「学習内容・活動」の記載を「単元と評価の計画」とした。

グループでの話し合いでは、授業づくりシートを活用することで、生徒ができたことや課題が分かり、新しい手立てや支援について考えることができたという意見が多くあった。その後の授業では、生徒が学びを深めたり、できるようになったことが増えたりした。

また、学習指導要領や参考資料を基に、目標や評価についての捉え方を学部全体で確認することができた。確認した資料は、その後の授業づくりに活用することができた。

この手順を踏みながら授業づくりシートを活用した授業を継続することで、指導と評価の一体化が定着した。

(2) 個別の指導計画との関連

実際に、個別の指導計画に記入することを考え、評価を行った。評価することで新たな課題も見つかり、次の授業に向けての指導や支援についても考えることができた。高：資料2

3 課題

(1) 授業づくりと観点別学習状況の評価

授業づくりシートを活用した授業実践を行う中で、評価規準／基準の設定方法や評価の仕方について難しさを感じるが多かった。内容は次のとおりである。

- ・ 目標を立てる時にどのように立ててよいか難しい。
- ・ 評価規準／基準はどのように立てるか。
- ・ 目標が大きすぎると評価しづらい。

上記の課題解決に向け、観点別学習状況の評価についてさらに理解を深めるためには、学習指導要領や参考文献などを活用しながら、授業実践をする必要がある。

(2) 個別の指導計画との関連

授業づくりシートに記載する評価が、一言やコメントのような書き方が多く、そのまま個別の指導計画に記入すること難しかった。

「主体的に学習に取り組む態度」については評価が難しく、どのように見取っていくのかについては課題がある。

4 2年次に向けて

- ・授業づくりシートを活用した授業を継続しながら、評価規準／基準の立て方について考えていく。
- ・教科ごとに、授業づくりや評価の仕方について共有する場面を設定する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、目標の立て方や評価についての考え方を整理する。

高等部 授業づくりシート (R4Ver.)

学年・学団	高等部 1～3年	
教科・領域・ 単元名	数学 B「時間と時刻」	
取組期間・ 場所	5/16(月)18(水)23(月)25(水)30(月) 月 10:35～11:25 水 13:15～14:05 3-1・2教室	
目標＝評価規準 <単元を通して 育てたい力>	<p>(知・技) ・時計のイラストや文章を読み取、時間の経過を求めることができる。</p> <p>(思・判・表) ・経過時間を理解し、時や分などを変換しながら求めることができる。</p> <p>(主・態) ・問題文や解答をみんなで確認し、発問に答えようとする。</p>	
本時の目標 <この時間で 育てたい力>	(知・技) 問題文を読み取り、時間経過の計算ができる。	
	学習内容・活動	指導上の留意点＝深い学びにつなげるための工夫
	<p>1 あいさつ</p> <p>2 振り返りをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までのプリントを見ながら学習を振り返る。 ・問題文の注意点を確認する。 <p>3 プリントを取り組もう <時間と時刻の> 応用問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんの一日」のプリントに取り組む。 <p>4 みんなで丸つけをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に問題文を音読してもらいながら、重要なポイントを答えてもらう。 ・一人ひとりに解答や解き方を聞きながら板書し、板書内容をプリントにメモする。 <p>5 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする生徒を教師が指名し、号令をかける。 ・前回の取り組んだプリントを見返しながら、問題文の中でポイントとなる文章や解き方などを確認する。 ・黒板に時計のイラストや時計の具体物を用いて視覚的に示し、生徒から答えを聞きながら解説をする。 ・時間を設定(15分程度)し、タイマーをセットする。 ・机間巡視の中で、回答に困っている生徒には解き方のヒントを出しながら取り組ませるようにする。 ・問題文を声に出して読み、板書に重要なポイントの文章を書いて分かりやすく提示する。 ・自分で分からない問題があった時には、問題文の重要ポイントに線を引かせる。
配置図 ペア など	<p style="text-align: center;">黒板</p> <div style="text-align: center;"> </div>	
評価 <評価規準 にそった生 徒の姿>	<p>生徒実態と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇時間あと」「〇分前」などは時計のイラストを使って、数えながら答えることができた。また、文章問題で悩んでいるときに個別に問題の解き方を確認することで答えることができた。まだ文章の読み取りには課題がみられた。 ・1時間＝60分、2時間＝120分などを基準に計算方法を確認することで、「時間→分」や「分→時間」の時間変換ができるようになった。個別で解き方の確認をするとスムーズに問題を答えることができた。 ・答え合わせて、問題文を音読することによって重要な問題文が分かって、生徒自身から発言することが多くなった。また、詳しく解き方を確認することで答えを導き出すことができた。 	
指導の 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・実態差がある中で、もう少し学習の習熟度別でプリントを分けて取り組ませた方が個別で確認する時間が減ると思う。 ・小さい時計の教具を一人ひとりに持たせ、随時時間が確認できるように設定した方がよかった。 ・早くプリントを終わってしまう生徒には追加で取り組ませるプリントを準備した。 	

高等部 授業づくりシート (R4Ver.)

改善後

学年等	数学Bグループ		場所	3-1		
教科・領域・ 単元名	数学「単元:金銭の計算(割引について)」					
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	目的に応じて四則計算を理解して計算することができる。		目的に合った数の表し方や計算の仕方を考えて答えようとしている。	数の処理で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。		
単元と評価の 計画	まとめり	期間	学習活動	評価項目		
				知	思	主
	第1次 (2時間)	11/18	「買い物の計算」 消費税や割引の仕組みについて	○	○	
	第2次 (2時間)	11/21 28	「割引の計算」 割引率や計算方法について	○	○	○
第3次 (2時間)	11/30 12/5	「お金の支払い」 割引になった商品を買うときや少ないおつりの支払方法について	○	○	○	
人数	1~3年 7名					単元のまとめりが 分かりやすいよう 項目を見直した。
目標	別紙参照					
取り組みの様子	別紙参照					
学習内容・活動			指導上の留意点=深い学びにつなげるため (⇒:評価基準 <>:評価の方法)			
1 あいさつ			・生徒を教師が指名し、号令をかける。			
2 前回までの振り返り、今回の学習について			・前回の取り組んだプリントを見返しながら、振り返りをする。 ・今回の学習内容について確認する。			
3 「商品の割引率」プリント ・必要な情報を確認しながら計算してみる。 ・練習プリントで商品や合計金額などを記入する。			・割引率を確認できるように割引一覧表を用意する。 ・商品と金額を確認しながら正確に計算できるように電卓を使用する。 ・机間巡視の中で、回答に困っている生徒には解き方のヒントを出しながら取り組ませるようにする。			
4 全体で答え合わせ、振り返る。			・問題の解き方(割引率や計算方法など)を全員で確認しながら解答する。			
5 ペアで役割を決めて買い物の計算をする。			・商品一覧を準備し、選ぶ基準を示して取り組ませるようにする。			
6 次回の学習について			・次回「割引の計算」の学習の続きをすることを伝え、電卓を授業前に準備しておくことを伝える。			
6 あいさつ			・始めにあいさつをした生徒に号令をかけてもらう。			
評価	(知) 事前に配られた割引率の計算方法が載っている表を確認しながら正確に計算することができた。 (思) 商品の金額を確認し、それぞれの割引率を電卓を使いながら支払い金額を計算することができた。 (主) 教材として作ったレストラン恵風のメニューの中から自分が食べてみたいと思う商品を積極的に選択し、仲間と確認しながら取り組むことができていた。					
指導の 振り返り	・ペアでの買い物計算をしたことで生徒同士で割引率を確認し合いながら積極的に取り組む様子があり、理解度も深まった。実際のメニュー表を作成したことで会話も盛り上がり、意欲的に取り組む生徒が多かった。 ・3人グループにしたところは役割が複雑になって上手くいかなかった。					

配置図は記載しないこととした。

教科	国語E
生徒	
個別にどう書いていくか	○動画や写真とみ2.様子 表示は(不)2(不)に興味 をもち、自分なりに感じたことを 意図的に話し言葉で表す ことができた。

模擬買い物場面で、自分から
仕取り表を使って金額を選んで
ちょうどの額を支払うことができた。
また複数ものを買うときには
計算機でたし算の計算をし
持っているお金で払えるかどうかを
考えることができた。

国語
<p>1 修学旅行先の地名や観光地の 読み方を覚え、その中から興味を もった場所を自分で選ぶことが できました。 また、選んだ場所についてiPadで 調べ、楽しみなどについて文章で まとめ発表することができました。</p>

数学
<p>買い物の計算では、2つの商品を選 び、合計金額を計算し、お金 を使って支払うことができました。 電卓での足し算計算、答えをお金 で表すことの流れが定着し、正解を 重ねたことでより学習に興味をも と、取り組むことができました。</p>

数学 A
<p>宮古市から東京都への 2泊3日の方針プランを立てる 学習を行いました。自分で 時刻表を見て、バスと電車 だとどちらが速いか 見比べたり、時刻の 単位変換に気をつけ ながら時刻を求める計算 について取り組むことが できました。</p>

国 A
<p>宮古市を説明の要素を挙げ、話の 中心が伝わりよう文の順番を工夫して発表 することができました。ふりがなリストでは 「文が作るのがかんたんになった」と表現し、 作文のコツをつかいた様子が見れます。</p>

2年次研究（2年次）

I 研究方法

- ・各学部での取組
- ・授業づくりのベースは国語または算数／数学とし、他の教科等にも取組を広げる。
（指導の根拠となる、学習指導要領に基づくこと）

II 研究推進

- ・研究日を月1回設定する。
- ・各学部で実践を見合い、全体授業研究会で共有する。

実施日	内容		
4月19日（水）	第1回全体研究会	研究推進の確認 職員共通理解	
5月10日（水） 6月20日（火）	研究日（学部研究会）	授業づくり 授業改善	
8月1日（火）	全体授業研究会	授業参観 気付いた点の共有	
	高教研講演会	演題 「学習指導要領を踏まえた授業づくり ～観点別学習状況の評価のあり方～」 講師 東北福祉大学 教育学部 教授 大西孝志氏	
8月22日（火） 9月19日（火） 10月24日（火） 11月21日（火） 12月19日（火） 1月23日（火）	研究日（学部研究会）	授業づくり 授業改善 評価	
		まとめに向けて	
2月27日（金）		第2回全体研究会	2年次の研究のまとめ

III 小学部の実践

1 取組

1年次の取組を踏まえ、年度初めの研究日に、学部全体で「主体的に取り組む態度」の評価規準について記入の仕方や授業づくりシートの活用について確認し、観点別学習状況の評価の視点を取り入れた授業づくりシートの作成を継続した。

今年度は、一人一枚授業づくりシートを作成することとし、国語や算数だけではなく、音楽や体育、生活単元学習や日常生活の指導など、「各教科等を合わせた指導」での作成にも取り組んだ。また、9月からは学習集団に応じ、①1年生 ②2・3年生 ③4～6年生の3つのグループに分かれ、授業づくりシートを基に、授業の様子について話し合った。さらに、音楽や体育などの学習集団でも、授業づくりや指導方法について共有する機会を設定した。それぞれのグル

ープで、評価基準が達成されていることの確認や評価規準／基準の内容の精査をした。

2 成果と課題

(1) 学部全体での成果と課題

観点別学習状況の評価の視点を取り入れた授業づくりシートの作成を継続し、それを活用しながら、日々の授業実践ができた。個別の学習場面だけではなく、体育や音楽といった全体の学習場面でも、それぞれの児童の評価基準を設定し、教師間で共通理解しながら授業を進めることで、評価する姿を明確に意識しながら授業実践ができた。また、グループごとに授業づくりシートの内容について意見交換を継続したことで、授業の改善につながった。授業づくりシートを活用した授業実践後の意見は、次のとおりである。

- ・自分の授業を振り返ることができた。
- ・児童の学習の段階について、改めて考えて授業づくりができた。
- ・評価規準の記述の型が決まっていたため、考えやすかった。
- ・評価する姿を具体的にイメージしながら授業ができた。

6月の研究日には意見交換を行い、授業づくりシートの作成や活用について肯定的な意見が多く出された。その中で、「授業づくりシートをつくるのが目的ではなく、あくまでも授業のためのメモ程度と捉える。評価規準／基準を意識しながら授業実践をし、評価規準／基準が達成されたかどうかを振り返りながら進めていくことがよい。」という意見も出された。授業づくりシートを作成して授業実践をしていくことで、それぞれが丁寧に対象児童の実態把握をし、どんな評価規準／基準を設定したらよいかを、学習指導要領を見ながら考える機会が増えた。また、実際に授業を始めてから評価基準が児童の実態に合っていないと気付くこともあった。その際には、評価基準を考え直し、授業づくりシートを再作成することもあった。それによって、授業の評価基準を具体的に意識しながら授業実践ができた。「各教科等を合わせた指導」で授業づくりシートを作成するには、複数の教科の評価規準を記入することになり、現在の様式では記入しにくい部分があった。一方で、グループ内で評価規準／基準について意見交換をし、「各教科等を合わせた指導」でも授業づくりシートを活用した授業実践を継続することができた。

(2) グループごとの成果と課題

ア 1年生グループ（図画工作、国語、日常生活の指導）

- ・新しく取り組む単元の授業づくりシートを担当者が作成し、それを基に、評価規準／基準について話し合った。一人では悩むことの多い評価規準／基準の作成について、複数の視点から意見を出し合うことで、具体的に記入することができた。
- ・過去に行った授業を振り返り、児童の評価から遡って授業づくりシートを作成した。過去の実践を基に評価基準を考えることで児童の実態を見直し、改めて評価規準／基準を設定した。

イ 2・3年生グループ（体育、音楽）

- ・実際に体育の授業の様子を動画で見ながら、授業づくりシートに記入されている評価基準が達成されているかグループ内で確認した。また、次回以降授業で取り組む内容について、複数の具体的な例を挙げながら、アイデアを出し合うことができた。

- ・新しく取り組む音楽の単元の授業づくりシートを担当者が作成し、それを基に、評価規準／基準の記入の仕方や評価について話し合った。

ウ 4～6年生グループ（国語、算数、日常生活の指導）

- ・評価規準の語尾や表現の仕方などをグループで確認し整えた。また、対象児童が達成できそうな学習内容などについてアイデアを出し合い、授業改善につなげることができた。
- ・新しく取り組む日常生活の指導の授業づくりシートを担当者が作成し、それを基に、評価規準の記入の仕方について話し合った。「各教科等を合わせた指導」の授業づくりシートを作成するには、国語や算数、音楽など複数の教科の評価規準を記入することになり、現在の様式では記入しにくいという意見が出された。グループ内で検討し、今回は生活科に絞って評価規準を記入し、授業づくりシートを作成した。このことで、最も達成したい内容や評価規準を意識しながら授業実践ができた。 小：資料1

小：資料1

児童	評価の視点(基準)
A	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを聞いたり、字で書かれた予定表を見たりして、次に何をすることが分かり、一人で取り組むことができる。 自立活動、国語
B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に行動することにより、荷物運びや机拭きに関心を持ち、取り組むことができる。 自立活動
C	<ul style="list-style-type: none"> ・教師からの言葉掛けを受け止め、荷物運びに応じることができる。 ・次の行動を絵や写真で示したカードを見ることで、次に何をすることが分かり、一人で取り組むことができる。 自立活動



児童	評価の視点(基準)
A	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が伝えた回数の掃き掃除や床拭きを行う。 ・集中して設定された時間内に一人で着替える。 ・当日の感想について、取り組んだことと感じたことの二つを発表する。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを聞いたり、手本を見たりしながら自分の役割に取り組む。 ・教師の身体援助を落ち着いて受ける。 ・教師の言葉掛けを聞いて呼び鈴を鳴らす。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを聞き、机や椅子を運んだり、掃き掃除や拭き掃除をしたりする。 ・教師の言葉掛けを聞きながら、着替えや衣類の片付けを行う。 ・呼び鈴による合図や、教師の言葉掛けを聞き、進行表をめくる。

基準を生活科に絞って設定

エ 音楽グループ

- ・音楽の授業では、歌唱や演奏、ダンスなど1単位時間の中に複数の活動がある。そのため、新しい単元の開始前に授業に入る教師が集まり、それぞれの児童の評価基準について共通理解をする機会を設定した。さらに、授業終了後に振り返りシート「小：資料2」を回覧し、改善した方がよい点を記入することで、速やかに授業改善を行うことができた。

小：資料2

10月23日(月)

1 授業の流れについて

- ・前列と後列で楽器や歌などを見せ合ってもいいかもしれない。

2 曲・楽器等、教材について

3 児童の様子について

- ・繰り返し取り組むことによって、歌や楽器が上手になっています!Qさんも「まっかなあき」の振付が繰り返しの学習でできるようになりました。
- ・歌唱、振付を、児童の実態に合わせてもっと時間を費やして行っても良いと思います。一人ずつ「両手で丸を作る→みんなで行う→歌唱しながら行う」というように段階を踏むと、一人一人の達成度もわかるし、「やって、ほめられて、楽しい!」と児童が感じられるかと思いました。

4 そのほか

- ・後列の児童にも挨拶をお願いします?
- ・「まっかなあき」の歌詞の意味を確認してから歌うことで、意欲が高まったように感じました。
- ・体育もそうですが、「時間になったら始める」ということをどこかで確認できると良いですね(時間までに来て、座って待っている人たちもいるので)。

オ 体育グループ

- ・新しい単元の開始前に授業に入る教師が集まり、単元での取組内容について共通理解をする機会を設定した。その後、児童の実態に応じたグループに分かれ、それぞれの児童の評価基準や支援の手立てなどについて話し合い、授業改善につなげることができた。

3 2年次研究のまとめ

小学部では、学習指導要領に基づいて授業づくりシートの作成に取り組み、評価規準/基準を具体的に設定し、児童の評価する姿を明確にしながら授業をすすめてきた。2年に渡り取り組んだことで、授業づくりシートの作成は定着した。特にも音楽や体育などの学部全体で行う授業では、教師間で授業について共通理解を図るために有効活用されている。

グループごとの取組では、児童の評価する姿を引き出すために教材・教具や指導・支援の手立てを試行錯誤して取り組んだりしたことで、少しずつ授業の改善が成されてきている。今後、授業づくりシートによる共通理解や、児童の評価する姿を引き出すための授業実践、授業について

の意見交換を継続し、日々の授業改善につなげていきたい。

2年間の取組を通し、児童の評価する姿を明確にした授業実践や、多角的な意見を取り入れた授業改善に取り組み、指導と評価の一体化に迫ろうとしてきた。今後もこれまでの取組を大切にしながら、日々の授業づくりにあたっていきたい。

小：資料3

学年等	小学部1～6年		場所	ブレイルーム・体育館		
教科・領域・単元名	体育「器械運動をしよう」 (1段階:器械・器具を使つての遊び 2,3段階:器械・器具を使つての運動)					
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			
	器械・器具を使用して、跳んだり渡ったり転がったりすることができる。		友達とともに安全に楽しく、器械・器具使つた運動に取り組もうとしている。			
	主体的に学習に取り組む態度					
器械・器具を使用して、跳んだり渡ったり転がったりすると共に、友達と安全に楽しく取り組もうとしている。						
単元と評価の計画	まとめ	期間	学習活動	評価項目		
				知	思	主
	第1次(1時間)	9月5日	○学習グループや活動内容を知る。	○		
	第2次(8時間)	9月12日、19日、20日、27日、28日 10月10日、12日、17日	○グループ学習	○	○	
第3次(1時間)	10月19日	○発表会			○	
児童	評価の視点(基準)		支援の手立て	評価		
A	・平らな面に、腹ばいで5秒横になる。		・最初は、胸の下にブロックやマットを入れ、段階的に高さを低くしていく。 ・体の背面を、柔らかい青マットで覆う。	○脱力の経験を継続しつつ、バランスボール等を使用した支持姿勢の経験を新たに取り入れる。 ・かまぼこ型マットへの腹ばいから始め、徐々に高さを低くしながら取り組んだ。回数を重ねるごとに、力を抜くのが上手になり、途中で起き上がることなく平らなマットの上で10秒間腹ばいになることができた。		
B	・腹ばいの姿勢を経験する。		・胸の下に、ブロックやマットを入れる。 ・目の前に、興味をもちそうなグッズを置く。	○脱力の経験を継続しつつ、バランスボール等を使用した支持姿勢の経験を新たに取り入れる。 ・10秒間姿勢を保持する経験があり、数を数えている間は、静かに手足を伸ばしたまま腹ばいや仰向けの姿勢を保持することができた。		
C	・仰向けで自分から手を伸ばし、上から垂らされたタオルを触ろうとする。		・下にマットを敷き、本人の両側にブロックやマットを置く。 ・タオルの色や、タオルから顔までの距離を工夫する。	○腹ばいや仰向けの姿勢の経験を継続する。 ・かまぼこ型マットの上に仰向けになる経験をした。手足を伸ばすのが怖いのか、手足を縮めていることが多かった。しかし、回数を重ねるごとに頭をマットにつけたり、足を伸ばしたりする瞬間があった。		
学習内容・活動			指導上の留意点=深い学びにつなげるための工夫			
1 あいさつ 2 ラジオたいそう 3 ランニング ・音楽を聞いて走ったり歩いたりジャンプしたりする。 4 今日の学習について 5 器械運動をしよう グループに分かれて学習する。 ＊ブレイルームへ移動 ⑥心地よさを感じようグループ ・うつぶせや仰向けの姿勢を経験する。 ・腕や足を伸ばす。 6 あいさつ			・実態に応じて目の前で手本を示したり、体の一部を補助したりしながら体操に取り組む。 ・音楽をかけたり、笛で合図を出したりする。 ・T2以下も一緒に走ったり歩いたりする。 ・安全に活動できる場の設定や用具の工夫をする。			
配置図 ベア など	<器械運動時>					
	②グループ マット		⑥グループ 心地よさを感じよう			
	⑤グループ 手押し車、よじのぼり					
	①グループ 平均台、マット		③④グループ 肋木、手押し車			
ブレイルーム					6-1	
					図書室	
					1-1	
					4・5-1	

IV 中学部の実践

1 取組

- (1) 「授業づくりシート」、「授業づくりシート【次の授業に向けて】」、「評価シート」を活用した授業実践の継続

文言の正しい解釈、単元で達成させたいことは何かを明確にすることを意識し、作成することとした。評価シートは、記入することと内容を共有することから2回回覧することとし、個別の指導計画の目標一覧や年間指導計画も回覧した。

- (2) 授業実践

研究会の柱として、「国語」（全体授業研究会）、「音楽」、「作業学習」をベースに評価に対して、どのように授業展開や手立てを講じたかを話し合った。

- (3) 個別の指導計画、指導要録への活用

各学年、教科、作業、音楽、保健体育のファイルにシートを綴り、個別の指導計画、指導要録の作成時に活用した。

2 成果と課題

- (1) 指導と評価の一体化を目指した授業づくり

授業づくりシートの単元の評価規準を全体で統一した。様式や書き方を統一したことで、指導案内と同じ様式で学習指導要領から適切な文章を用いながら、シートを作成することができた。

ア 観点別学習状況の評価の具体的理解と実施

授業別の成果と課題

○：成果 △：課題 →改善案

教科（領域）名	国語（全体授業研究会）
授業づくりシートの共有	○授業で見てほしい活動を事前に確認することで、授業参観のときや評価の振り返りのときに協議しやすかった。
評価～授業改善	○3グループともに、評価シートから自分で気付くことができない部分にも気付くことができた。 ○授業の流れや手立てを見直し、次の授業改善につなげることができた。 ○評価するときには、個別の指導計画目標について評価することができた。

教科（領域）名	音楽
授業づくりシートの共有	〈T1 より〉 ・評価規準は、表現、鑑賞と音楽の評価に基づいて記入している。 中：資料1 ・個別目標は、前期が「歌」、「身体表現」とし、後期は「楽器」、「鑑賞」としている。 △50分内で4項目を狙うことは苦しい。

	<p>→評価規準は4項目としても、単元に応じて2項目（今日は楽器と身体表現に力を入れる）にした。</p> <p>△評価するとき、身体表現は生徒も好きで達成感もあり、評価しやすいが、歌は歌える生徒と歌うことに興味を示さない生徒といて、どのようにすれば目標が達成できるか悩むところである。</p> <p>鑑賞も座っていればいいのかと評価する際に悩んでしまう。</p> <p>→発表する場面を設定する、指揮者など歌うことだけでなく役割があるとよい。鑑賞するときに見るポイントを提示することも有効ではないか。</p>
評価～授業改善	<p>○単元に応じて2項目（楽器と身体表現に力を入れる）にポイントを絞った授業展開は内容が深められてよかった。</p> <p>○歌唱のときには、発表場面を設け、マイクを一人ずつ回すようにした。</p>

中：資料1

中学部 授業づくりシート

学年等	中学部	場所	サーモンホール
教科・領域・ 単元名	音楽「夏の歌を歌おう②」「ダンスを楽しもう」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	
	㊦発声の仕方に気を付けて歌うことができる。 ㊧リズムや速度を意識して演奏することができる ㊨示範を見て体を動かすことができる。 ㊩鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の良さを見いだして聴くことができる。	㊰曲調に合わせた歌い方で歌おうとしている ㊱手本をまねしようとしている。 ㊲示範を見てから身体を動かそうとしている ㊳鑑賞のポイントを意識して、聴いたり観たりしようとしている。	
	主体的に学習に取り組む態度		
	表現：曲調に合った発声で歌おうとしたり、リズムに合わせて演奏したり踊ろうとしたりする。 鑑賞：鑑賞についての知識を生かして、聴いたり観たりしようとする。		

教科（領域）名	作業学習
授業づくりシートの共有	<p>〈T1より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等を合わせた指導のため、授業づくりシートにどの教科で目標を立てたのかを明記した。 年間指導計画で示した6教科全てではなく、4教科に絞った。盛り込みすぎて大変になるよりも、ポイントを絞ったほうが目標もはっきりすると感じた。 作業は、「職業・家庭」から目標を立ててもよいと感じた。

評価～授業改善	<p>△3年男子生徒について、作業への拒否感、やる気がない状態が続いている。</p> <p>→言葉掛けの見直し、音楽の活用など、支援方法について共通理解を図った。</p> <p>○評価シート記入後、T1が国語、社会など、当てはまる教科はどれかを明記し、2回目を回覧した。</p> <p>→評価を記入した職員が記入する。個別の目標を意識し、評価していることが多い。今後は、教科も意識し、評価していくことで定着させていく。</p> <p>○指導要録を記入するときに作成しやすくなる。</p>
---------	---

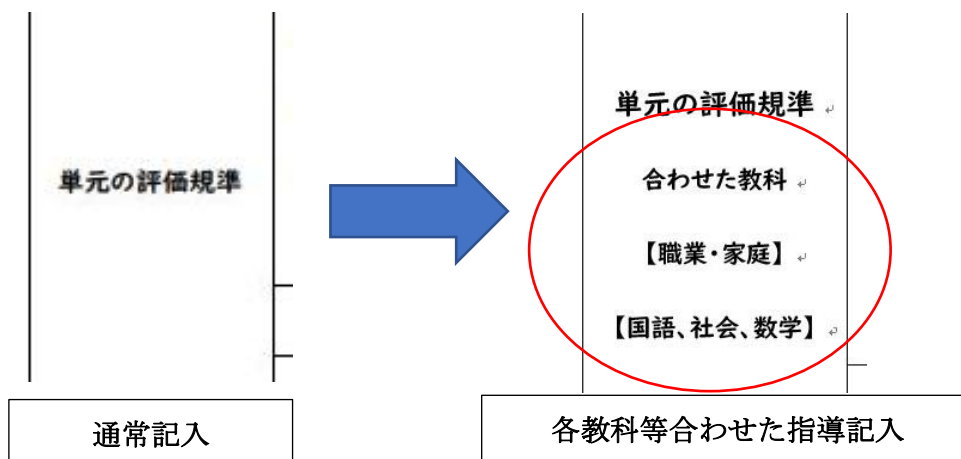
(2) 学習評価

単元の評価規準や個別の目標をもとに3観点の評価を意識しながら、評価シートを記入することができた。回覧することで、教師間での共有や意見交換も有効にできるツールとして評価シートを活用することができている。ただし、目標は三つの柱、評価は3観点の評価であることを前提に、授業づくりシートを作成することを学部で確認しながら進めた。

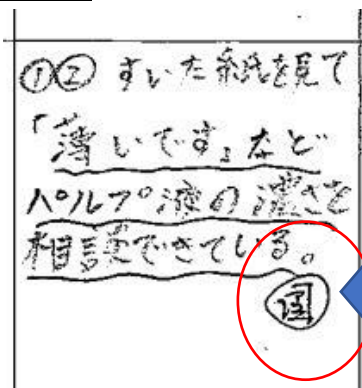
各教科等合わせた指導である作業学習の授業研究会を通して、授業づくりシートの書き方、評価シートの記入方法も変更した。どの教科を合わせているかを授業づくりシートに明記するようにした。(中：資料2) 年間指導計画で示した教科全てを目標にすると、盛り込みすぎてしまう課題からポイントを絞って評価規準を記入した。単元ごとの目標が明確化し、生徒に身に付けてほしい力を考えながら授業展開することができた。評価シートを記入するときには、評価する教師がどの教科の目標達成ができているのかを具体的に記入(中：資料3)することができるようになった。評価シートの◎：できた、○：支援が必要、の記入はしないことも確認した。(中：資料4)

個別の指導計画の評価をするときや指導要録を記入するときにも活用できた。

中：資料2



中：資料3



どの教科の目標達成
ができているかを
記入する

中：資料4

◎：できた ○：支援あり △：改善必要
ステップアップ （次の目標）



記入しない

3 2年次研究のまとめ

二年間の研究を通して、P 授業づくりシートの作成（T1）、D 授業、C 授業づくりシート【次の授業に向けて】：教師の振り返り、評価シート、A 授業改善～授業実践のPDCAサイクルが定着した。単元の評価規準を全体で統一した様式にしたことで、学習指導要領から目標を立てる意識が高まり、教師間でも目標達成に向けた共通理解を図るツールとして有効に活用できている。評価シートの記入も3観点の評価を考慮しながら、記入することができた。また、個別の指導計画や指導要録の記入に活用できている。各教科等合わせた指導の授業づくりシートの記入方法や評価シートの記入についても今後使いながら、定着を図っていくこととした。

次年度以降もPDCAサイクルの流れで、授業実践に生かしていきたい。

V 高等部の実践

1 取組

(1) 評価規準／基準と年間指導計画

授業づくりシートを活用した授業実践を継続して行った。月1回の研究日では、国語・数学の学習指導要領や年間指導計画を確認しながら、次の単元へ向けた授業づくりシートの作成に取り組んだ。国語・数学を担当していない教師も他の授業や行事などの様々な学習で授業づくりシートを活用したことにより、高等部全員が評価規準／基準について学習指導要領を参考に具体的に考え、授業づくりに取り組むことができた。また、研究を進める中で、授業づくりシートで取り上げた学習に含まれる教科ごとに教師をグループ分けし、授業を作る上での注意点や評価規準／基準について共有する場を設定した。その中で、授業づくりをしている際、年度初めに立てた年間指導計画や個別の指導計画が現在の生徒の成長や実態にそぐわない場合は、活動の目標を変更する必要があることも確認した。

イ 授業づくりシートから個別の指導計画への記入

授業づくりシート内での評価の記入では、メモやコメントのような一言での書き方が多く、そのまま個別の指導計画に反映することが難しかった。そのため、評価したものをどのように個別の指導計画に反映させていくかについてグループで話し合いを行った。

2 成果

(1) 評価規準／基準と年間指導計画

学習指導要領や年間指導計画を確認しながら授業づくりを行うことで、活動をイメージしやすい目標や評価規準／基準の文言を考えたり、教師同士で授業について計画的に考えたりしながら準備をすることができた。**高：資料1－1**目標の書き方や評価の仕方について国語・数学のグループに分けて共有した内容は次の通りである。

ア 実態把握を細やかに行う。

イ 評価規準／基準については学習指導要領を参考にする。

ウ 目標は明確なもので、尚且つ生徒にとって現状の活動より少し難易度の高いものにし、努力しながら達成できるものであるとよい。

エ 授業での振り返りは教師間で即時に行う。

オ 改善点や課題点を次の授業に活かす。

共有した内容からPDCAサイクルを基本とする指導と評価の一体化を目指した授業づくりを行うことが大切であると全員で確認した。また、評価規準／基準を記入する時に「生徒がその時間に何を身に付けたらよいのか」をはっきりさせることで、その授業での“ねらい”をより明確にすることができた。

(2) 個別の指導計画との関連

授業づくりシートで記入した“ねらい”について明確にしたことで、生徒の成長の様子や評価を具体的に記入することができた。**高：資料1－2**また、授業後に教師間での振り返りを行うことで細やかな変化や今後に向けた改善点などを共有することができた。

3 課題

(1) 評価規準／基準と年間指導計画

PDCAサイクルを繰り返し行っていく中で授業の振り返りは即時行うことが大切であるとの意見が共有されたが、単発の活動になってしまう単元（避難訓練などの全校行事）については、本時で出た課題点に対する改善（A：アクション）が次の授業に生かしづらいこと、重複学級の生徒に手が届きやすいようにする目標設定や「できた」を評価するための見取り方が難しいことが課題として挙げられた。課題を改善するために、（時期は空いてしまうが）次の行事や今後の学習場面に生かしていくこと、重複学級の生徒は目標をスモールステップで設定していくこと必要であると考えた。また、重複学級の生徒を評価するためには、表情の変化などの小さな変化や様々な表出に気付いていくことが大切であると確認した。

(2) 個別の指導計画との関連

個別の指導計画の目標が具体的であるため、目標にしていなかった学習の様子やできるようになったことを評価に記入することが難しいという意見があった。個別の指導計画は学年に応じて身に付けた力が具体的に記入する必要があると考え、個別の指導計画に記入できなかった学習の様子については、日頃の連絡帳や学期末面談などで成長の様子や変容を伝えることを確認した。

4 2年次研究のまとめ

2年間の研究を通じて、観点別学習状況の評価の仕方について授業づくりシートを活用しながら授業実践を行ってきた。学習指導要領や参考資料を確認しながら授業づくりシートを

作成することで、評価規準／基準についても明確に設定することができた。教科のグループごとに授業後の振り返りを行うことで、生徒ができたことや課題として見えてきたこと、新しい手立てや支援について考える時間となり、その考えを次の授業に生かすことで、PDCAサイクルを基本とした指導と評価の一体化を目指した授業づくりを行うことが学部内で定着してきた。現在では、授業づくりシート内に記入した評価を個別の指導計画を記入する時の資料として活用している。

次年度もPDCAサイクルを意識しながら、指導と評価の一体化を目指した授業づくりを継続して行っていきたい。

高：資料1-1

学年等		高等部		場所	体育館				
教科・領域・単元名		防犯教室							
単元の評価規準	知識・技能			思考・判断・表現					
	夏休みの暮らし方や SNS の利用方法を理解し、安全に過ごす知識を身に着ける			クイズや動画を視聴しての考えを、挙手や発言で伝えることができる。					
	主体的に学習に取り組む態度								
	夏休みの暮らし方や、携帯電話・SNS の使用方法について、自分の意見を周りの生徒に共有・伝達したり、発表したりすることができる。								
単元と評価の計画	まとめ	期間	学習活動				知	思	主
	第1次 (時間)	7月12日 (1時間)	防犯教室				○	○	○
学習内容・活動			指導上の留意点=深い学びにつなげるための工夫 (⇒:評価基準 <>:評価の方法)						
11:30～ あいさつ									

学習指導要領を基に作成した

高等部 授業づくりシート (R5. I Ver.)

学年等	生活単元学習		場所	調理室
教科・領域・単元名	自立に向けた調理学習			
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	
	目盛を正しく読み取り、分量通りに正しく計量することができる。		安全と衛生に留意して調理を行うことができる。	
	主体的に学習に取り組む態度			
分量通りに正しく計量し、安全と衛生に留意しながら調理に取り組もうとしている。				
単元と評価の計画	まとめ	期間	学習活動	
	・アメリカンドッグを作る。			
生徒	評価の視点(基準)	支援の手立て	評価	
A.	・包丁や火を安全に使って調理に取り組むことができる。	・見本を教示する。 ・活動の前に注意点を簡潔に伝える。 ・調理工程の流れを動画で示す。	正しい調理手順を見本で示すことで、安全と衛生に留意しながら、調理に取り組むことができました。	
B.	・計量器を用いて、重さを正確に量ることができる。	・見本を教示する。 ・調理工程の流れを動画で示す。 ・さじを使って少しずつ入れて調整することを確認する。	レシピを確認し、計量器やさじなどの道具を正しく扱って、正確な分量を量りながら調理に取り組むことができました。	
C.	・目盛を正しく読み、正確に計量する。	・見本を教示する。 ・目盛を正面から見て確認することを確認する。 ・調理工程の流れを動画で示す。	水の分量を量るときに、目盛を正面から見ることで正確な計量をすることができた。	

メモやコメントではなく具体的に評価を記入することができた。

VI 研究のまとめ

学部ごとに、学習指導要領を踏まえた、観点別学習状況の評価の具体的理解と実施や、指導と評価の一体化を目指した授業づくりに取り組んだ。観点別学習状況の評価の視点を取り入れた授業づくりシートや3観点評価を意識し記入した評価シートからの授業改善など学部ごとに国語または算数/数学をベースに取り組み、他の教科等にも取組を広げていくことができた。その際は、指導の根拠となる学習指導要領に基づき授業展開することができた。

「その単元で児童生徒は何ができればよいのか」「年間を通して児童生徒に身に付けたい力は何か」など、育てたい資質・能力を明らかにし、カリキュラム・マネジメントを進めることができた。

各教科等合わせた指導について、どの教科を合わせているのか、ねらいをどこに絞るのかなど理解を深める必要があるという意見があったが、今後も各学部の授業づくりシート活用は継続し、活用しながら意見交換していくこととした。

